

## 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

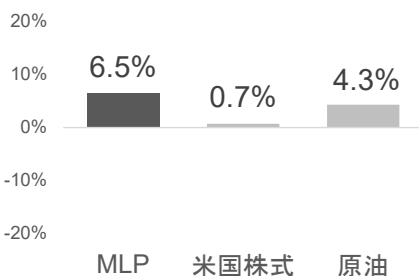
7月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比 - 5.6%と10ヵ月ぶりの下落となりました。

月初に予定されていたOPEC(石油輸出国機構)と非加盟の産油国からなるOPECプラスの閣僚協議が延期されたことを受けて、先行き不透明感などから原油価格が下落基調となる中、MLPは中旬にかけて下落しました。下旬にかけて、MLPは、原油価格の反発や米国株式市場の上昇などを好感し、持ち直す展開となったものの、中旬までの下落分を取り戻すことはできませんでした。

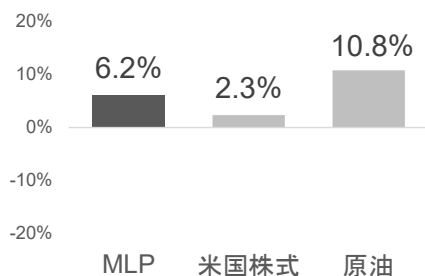
## 過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

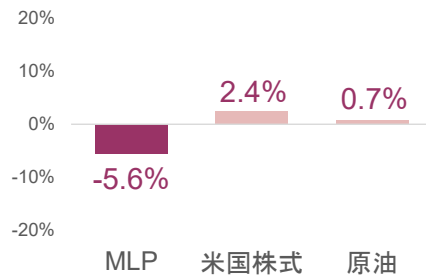
## 2021年5月



## 2021年6月



## 2021年7月



## 主要指標の動き

MLP: S&amp;P MLP 指数、米国株式: S&amp;P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3ヵ月前月末	前年末	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
<b>S&amp;P MLP 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	4,376.43	4,637.55	4,101.87	3,165.76	-5.6%	6.7%	38.2%
プライスリターン	1,075.45	1,148.96	1,027.64	818.13	-6.4%	4.7%	31.5%
<b>S&amp;P 500種 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	9,155.21	8,942.78	8,678.16	7,759.35	2.4%	5.5%	18.0%
プライスリターン	4,395.26	4,297.50	4,181.17	3,756.07	2.3%	5.1%	17.0%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	750.12	817.73	739.04	561.47	-8.3%	1.5%	33.6%
プライスリターン	372.99	407.37	371.60	286.14	-8.4%	0.4%	30.4%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,748.43	1,667.24	1,609.20	1,369.91	4.9%	8.7%	27.6%
プライスリターン	385.01	367.63	357.01	306.79	4.7%	7.8%	25.5%
<b>米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,559.44	1,553.91	1,528.55	1,498.42	0.4%	2.0%	4.1%
プライスリターン	77.71	77.78	77.21	77.10	-0.1%	0.6%	0.8%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	1.22%	1.46%	1.62%	0.91%	-0.24	-0.40	0.31
<b>原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	73.95	73.47	63.58	48.52	0.7%	16.3%	52.4%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	3.91	3.65	2.93	2.54	7.2%	33.5%	54.2%
<b>米ドル (対円)</b>							
	109.72	111.11	109.31	103.25	-1.3%	0.4%	6.3%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

## 当月の出来事いろいろ

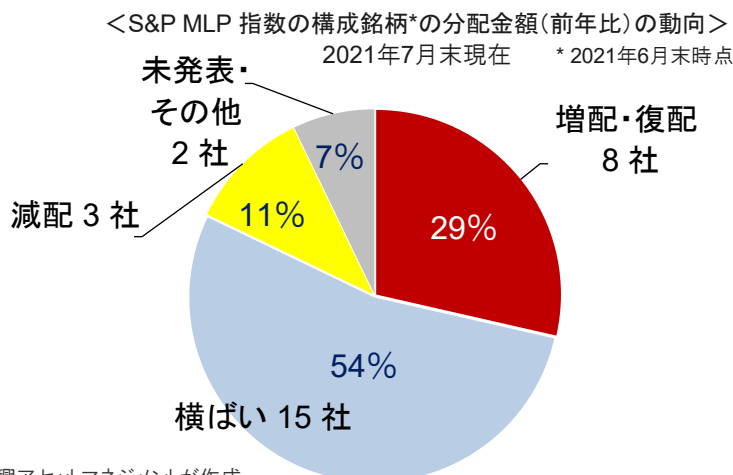
- 1日に開催されたOPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラス会合において、8月以降の産油量について合意に達することができなかった。サウジアラビアとUAE(アラブ首長国連邦)の対立が続き、2日に延期された閣僚協議でも結論が出ず、5日に予定されていた閣僚協議の開催も見送られることとなった。しかしながら、18日に閣僚協議がようやく開催され、原油の協調減産を8月から毎月、日量40万バレルずつ縮小(つまり増産)することや、協調減産を2022年末まで続けることが決定された。
- 1日、OPECプラスにおける原油の協調減産について、規模の緩やかな縮小でサウジアラビアとロシアが暫定合意したとの報道を受けて原油価格は上昇し、WTI原油先物価格が2018年10月以来初めて1バレル=75米ドルを超える水準となった。その後、OPECプラスの閣僚協議が先送りされたことなどが嫌気され下落基調となったものの、8日にEIA(米エネルギー情報局)が発表した週間統計において、原油在庫が7週連続で減少したことなどをを受けて原油価格は反発し、WTI原油先物価格が13日に1バレル=75.25米ドルと、直近の高値を付けた。
- 新型コロナウイルスのデルタ株による感染が世界的に拡大していることなどを受け、景気の先行き懸念などから、中旬に米国株式市場が大きく下落する場面がみられた。しかしながら、4-6月期決算への期待などから、月末にかけて上昇し、米主要3株価指数は史上最高値を更新した。

## 今後の注目点

- 2021年4-6月期のMLPの決算発表が注目される。

## MLPの分配金動向

MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。7月から公表が始まっているMLPの2021年4-6月期の分配金は、7月末現在で、指数構成銘柄(28銘柄、2021年6月末時点)のうち、**26社の発表が終了しており、前年比での増配・復配が8社、横ばいが15社、減配が3社**となっています。同四半期は、横ばいとする企業が多く、減配の企業は限定的でした。

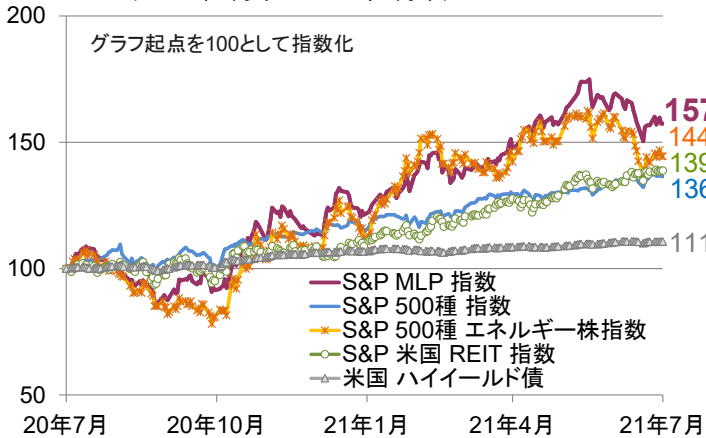


※左記の数値は四捨五入の関係で合計が100%とならないことがあります。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成  
※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

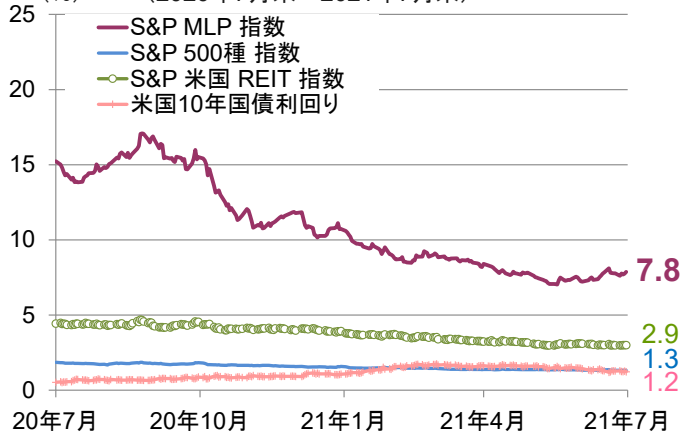
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2020年7月末～2021年7月末)



■過去1年の各資産の利回り

(2020年7月末～2021年7月末)

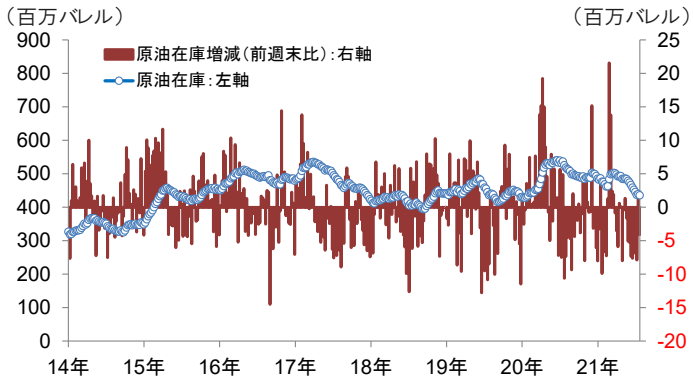


※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

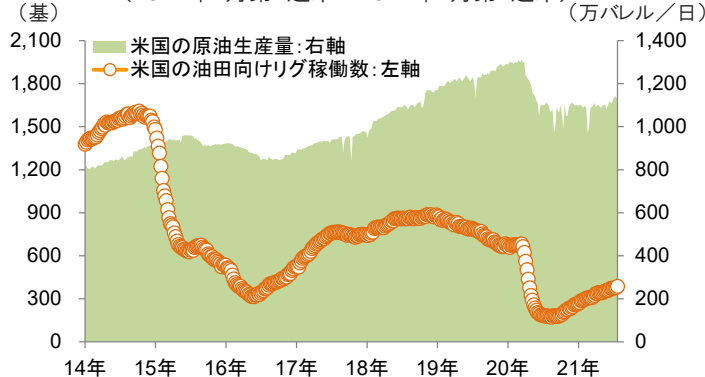
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年7月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

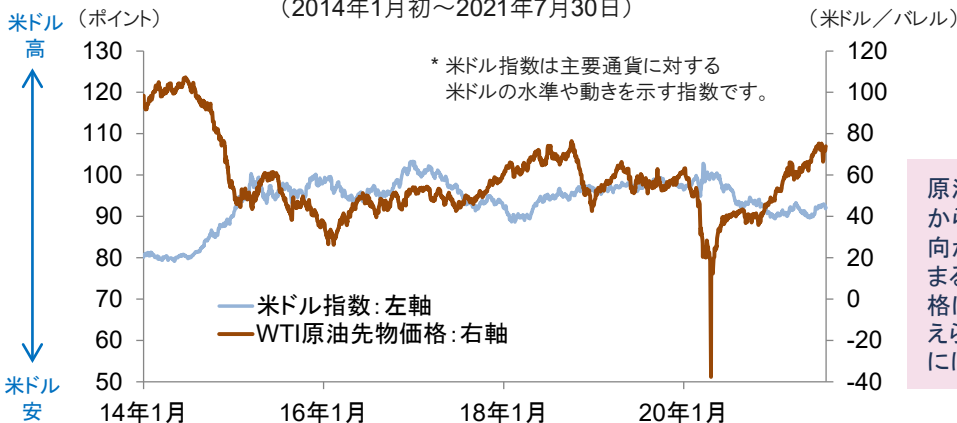
(2014年1月第1週末～2021年7月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2021年7月30日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。